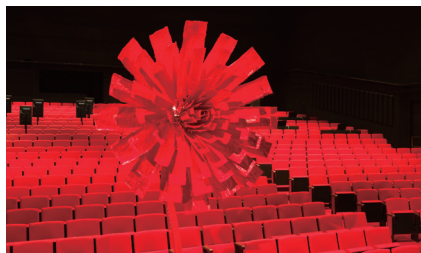


札幌国際芸術祭2024 閉幕

- ・“未来を考える芸術祭”初の冬開催に356,784人が来場
- ・20以上の公募・連携プロジェクトにより、冬の札幌がアートの雰囲気にもまれる
- ・SIAF2024と来場者をつなぐ「ふむふむサポーター」に市民を中心に総勢198名が参加



チェ・ウラム《Red》
撮影：藤倉 翼



未来の札幌の運動会
撮影：小牧寿里



SIAF2024アルスエレクトロニカ・デー「ピアノグラフィック」
撮影：クスマエリカ



トーク「SIAF2014から2024へー坂本龍一ゲストディレクターからのバトン」 撮影：クスマエリカ



明和電機「オタマトーンが弾けるワークショップ」
撮影：小牧寿里



地下公園「知られざる札幌の地下をめぐるツアー」
撮影：クスマエリカ

2024年1月20日(土)～2月25日(日)[37日間]をメイン会期とする札幌国際芸術祭2024 (SIAF2024) が、3月3日(日)をもって全ての会場会期・プログラムが終了し、閉幕を迎えました。

6年半振り、初の冬開催となった今回の芸術祭では「LAST SNOW」をテーマに、アート、テクノロジー、サイエンスが交差する新しい表現や、先進的なアイデアを持つ作品・プロジェクトを紹介しながら、未来に向けた創造と行動を呼びかけました。劇場施設を特別な展示空間へ大胆に変容させた「未来劇場」、ビクターセンターとして多くの来場者を迎えた「札幌文化芸術交流センター SCARTS」など、個性あふれる会場には、小さな子どもから大人、市民から観光客まで、幅広い来場者が訪れました。

18の国と地域から、84組のアーティストの作品展示、雪原での「未来の札幌の運動会」やアーティストによるトーク、音楽パフォーマンスを含む会期中イベント、市民参加型プロジェクト、企業や団体とのコラボレーションなど、多彩なプログラムを展開してきたSIAF2024。多くのみなさまのご協力・ご来場にお礼を申し上げます。

来場者数：356,784人

- ・未来劇場：22,972人
- ・札幌文化芸術交流センター SCARTS：32,865人 (SCARTSコートの来場者を計上)
- ・北海道立近代美術館：13,731人
- ・さっぽろ雪まつり大通2丁目会場：246,820人
- ・札幌芸術の森美術館：16,803人 (「明和電機ナンセンスマシーン展 in 札幌」来場者を計上)
- ・モエレ沼公園：8,720人 (「未来の運動会ルーム」来場者を計上)

上記に地下公園、札幌市資料館及び会期中イベントの来場者数を合計したものの。

会期：2024年1月20日(土)～2月25日(日)

札幌芸術の森美術館：2023年12月16日(土)～2024年3月3日(日)

さっぽろ雪まつり大通2丁目会場：2024年2月4日(土)～11日(日・祝)

会場：未来劇場(東1丁目劇場施設)／札幌文化芸術交流センター SCARTS／北海道立近代美術館／札幌芸術の森美術館／モエレ沼公園／さっぽろ雪まつり大通2丁目会場／地下公園

サテライト会場：札幌市資料館

参加アーティスト数：84組(18の国と地域から参加)

主催・共催イベント：77件

公募プロジェクト：13件／連携プロジェクト：15件

2つのストーリー

主要6会場を「アートの200年の旅」と「未来の冬の実験区」の2つのストーリーに分けて設計しました。実際の会場記録写真と共に振り返ります。

「アートの200年の旅」

2024年を中心とした過去と未来（1924〜2124年）

未来劇場 「2124-はじまりの雪-」

東1丁目劇場施設を、アートを通して未来を体験し、考え、行動するための芸術祭の拠点となる展示会場「未来劇場」に転換。劇場全体を使用し、国際色豊かな19組のアーティストによる作品を紹介しました。参加型コンテンツもふんだんに盛り込み、「鑑賞」を「体験」に変える新たな空間を創出しました。



ジョヴァンニ・ベッティ+カタリーナ・フレック
《Invisible Mountain》
撮影:藤倉翼



青木美歌 未来劇場での展示風景
撮影:藤倉翼



シン・リウ 《Gleaming Bodies》
撮影:藤倉翼

札幌文化芸術交流センター SCARTS 「SIAF2024ビジターセンター」

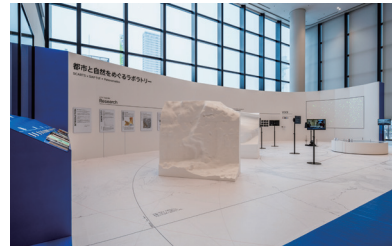
自然公園の「ビジターセンター」になぞらえた機能ごとに館内をエリア分けし、ローカルのクリエイターから企業やメディアまで、多彩なコラボレーターとの共創空間が出現。また、会期中数多くのイベントが開催され、SIAF2024の交流拠点として賑わいました。



SIAF2024ビジターセンター@SCARTS
撮影:古瀬 桂(GAZE fotografica)



Sony Design in collaboration with HIRAKAWA
Norimichi《INTO SIGHT at SIAF2024》
撮影:門間友佑



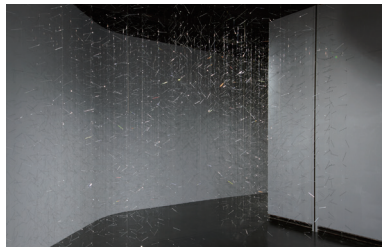
SIAF2024ビジターセンター@SCARTS
撮影:古瀬 桂(GAZE fotografica)

北海道立近代美術館 「1924-2024 FRAGILE[こわれもの注意]」

1924年から2024年現在まで100年間のアートにフォーカス。美術館のコレクションと現代のアーティストによる新作インスタレーションなどを「ひろがる」「ゆだねる」「シンプルに」「つながる」という4つのキーワードの中に位置付けて展示を行いました。



宮田彩加 《MRI SM20110908》,《MRI SM20121122》
撮影:小牧寿里



行武治美 《凍景》
撮影:小牧寿里



あべ弘士 《アフリカの光と風(18)キリンの頭の上 雲の子ども生まれる日。》ほか
撮影:小牧寿里

さっぽろ雪まつり大通2丁目会場 「とある未来の雪のまち」

「とある未来の雪のまち」をコンセプトに、これからの移動や暮らしといったテーマに焦点を当てた社会実験の場を生み出しました。小さな子どもや国内外からの観光客など、たくさんの方が来場し、光と音が彩る幻想的な風景の中で、未来の暮らしを見つめました。



エネス《Airship Orchestra》
撮影:小牧寿里



「とある未来の雪のまち」の展示風景
撮影:小牧寿里



株式会社良品計画
撮影:小牧寿里

札幌芸術の森美術館 「メディアアーツの森」

体験型のユニークな作品で人気のアートユニット明和電機を紹介する「明和電機 ナンセンスマシン展 in 札幌」、札幌発のテクノロジーやクリエイティブ産業に注目した「メディアアーツ都市・札幌って知ってました?」の2つの展覧会を通し、発想をかたちにし、未来を生み出すクリエイティビティに触れる試みを実施しました。



「明和電機 ナンセンスマシン展 in 札幌」の展示風景
撮影:クスマエリカ



「明和電機 ナンセンスマシン展 in 札幌」の展示風景
撮影:クスマエリカ



「メディアアーツ都市・札幌って知ってました?」での
Yukikaze Technologyによるロボット実演
撮影:小牧寿里

モエレ沼公園 「未来の雪の公園」

新たな競技を考える「ハッカソン」と、その競技であそぶ「運動会」から成る「未来の札幌の運動会」を開催。冬の札幌ならではのアイデアが詰め込まれた5種目の全く新しい競技・ダンスが誕生しました。また、2組の国際的なアーティストによる実験的な展示も実施しました。



「未来の運動会ルーム」の展示風景
撮影:クスマエリカ



ユッシン・アンジェスレヴァ+AATB《Pinnannousu》
撮影:クスマエリカ



脇田 玲《Over Billions of Years》
撮影:クスマエリカ

3つのC

SIAF2024の在り方を示すキーワードを設定し、2023年2月の記者発表で公表しました。SIAF2024の開催を経て、その成果をご紹介します。

Engine for Creativity 創造エンジン=未来志向を生み出す仕掛け

「未来に向けた実験区」としてさっぽろ雪まつり大通2丁目会場、札幌芸術の森美術館、モエレ沼公園、さらに地下公園を加えた4会場で未来志向やイノベーションを触発するプログラムを展開しました。開幕直前に詳細を発表し、札幌の未来のための地下活用プロジェクトが集う「社会実験」のプラットフォームとして位置付けた地下公園では、期間限定の移動保育室、知られざる地下世界をめぐるツアーなど、実験的なプロジェクトを実施しました。



地下公園「ローカル・クリエイターズ・エキシビジョン」
撮影：クスマエリカ

Cultural Infrastructure 文化インフラ=未来を垣間見る体験を提供

劇場全体を展示空間に転換した「未来劇場」を拠点に「SIAFスクール」を展開しました

芸術祭を学校に—多種多様な発見・体験・学びの場「SIAFスクール」

新しい学びの場をつくる体験型プログラム「SIAFスクール」を会期前から展開しました。アーティストが開発したアプリケーションを活用し、プログラミングで「自分だけの雪の結晶」をつくるワークショップでは、札幌市内の小中学校12校を訪れ、853名の子どもたちが参加。制作されたたくさんの雪の結晶は、未来劇場内の巨大スクリーンに降り注ぎ、子どもたちが芸術祭を通して、創作・展示に主体的に参加する機会となりました。会期中は、ワークショップに参加した子どもたちを未来劇場へ招待するプログラムも開催しました。



未来劇場 学校招待の様子
撮影：クスマエリカ



ふむふむガイドによる未来劇場ツアーの様子
撮影：門間友佑



みんなで見えて書いて、アートを楽しもう！
撮影：門間友佑



SIAFスクール 教育喫茶 特別編～学校の先生
Presents「STEAM STUDY DAY in SCARTS」～

SIAF2024と来場者をつなぐ役割として活躍した「ふむふむサポーター」「ふむふむガイド」には、札幌市民を中心に総勢198名が参加・活動しました。作品をナビゲートする「ふむふむガイド」による未来劇場ツアーは、会期中71回実施。503名の来場者が参加し、ガイドがピックアップした作品を解説とともに鑑賞しました。

また、学校の先生をはじめとする教育関係者が実験的な取り組みを生み出すコミュニティ「教育喫茶」も活動を重ねました。会期中には、学校の先生がSTEAMに絡めた特別授業をプロデュースし、広義の「教育」と「アート」を結びつけながら、芸術祭が新しい学校=文化インフラとなるような、SIAF2024ならではの象徴的な取り組みとなりました。

Citizen Participation 市民参加=市民や企業の参画／社会のためのアート

多彩な公募・連携プロジェクトで生み出された冬の文化芸術の盛り上がり

「雪=ウパシ」に由来し、「未来に向けて走り出してみる、互いに気づきあってみる」という意味が込められたアイヌ語サブテーマ「ウパシテ」をキーワードに、公募13件、連携15件のプロジェクトが集結。SIAF2024会期中を中心に、札幌市内外の文化芸術シーンが大きな盛り上がりを見せました。また、SIAFスクールを軸とした市民参加に加え、イニシアティブ・パートナー 8社とのコラボレーションにより、芸術祭の在り方の可能性が広がりました。

さらに、SIAF2014から恒常的にSIAFの活動拠点として活用してきた札幌市資料館では「SIAFアーカイブセンター」と題し、市民参加にフォーカスしながらこれまでのSIAFの歴史を振り返る展示を実施しました。



メッセージ —SIAF2024閉幕によせて—

SIAFが始まって以来、初めての冬開催となりましたが、「LAST SNOW」をテーマに、雪をはじめとしたこの季節ならではの札幌の特徴や魅力を生かしたアートの展示も多くあり、あらためて雪を自分ごとと捉えていただく機会になったのではないかと感じています。芸術祭の開催を通して、私たちの周りに当たり前のように存在している雪や未来の札幌の姿などを考え、まちがさらに創造的になっていくきっかけとなることを期待しております。

札幌国際芸術祭実行委員会 会長
札幌市長 秋元克広



SIAF2024では「LAST SNOW」という問いにたくさんの答えを出していただき、芸術祭が一つの問いになれるのだと感じています。

今回の芸術祭では「3つのC」として「創造エンジン／Engine for Creativity」「文化インフラ／Cultural Infrastructure」「市民参加／Citizen Participation」をキーワードに掲げました。当初は、3つの役割として捉えていましたが、SIAF2024では、市民参加を土台にその3つが生態系のように連動して、今後のための大きなベースが生まれたように感じています。未来劇場がそのシンボリックな会場となり、市民のみなさんの参加のもと「鑑賞」を「体験」に変換するような取り組みができました。

文化インフラが一層機能すれば、札幌は「アートという空気がまちを流れ、アートがひとを勇気づけてくれる」、そんな場所になるように思います。今ここにあるものをケアしながら、新たなものをどう育てていけるのか。そのイメージが、SIAF2024に参加してくださったみなさんの中に、少しずつ生まれていることを期待しています。

SIAF2024 ディレクター 小川秀明



札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）広告展開
撮影：クスメエリカ



未来劇場 学校招待の様子
撮影：小牧寿里



SIAF2024アフタートーク「未来を描く」
撮影：クスメエリカ

お問い合わせ

札幌国際芸術祭実行委員会事務局 広報担当

060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10階

電話：011-211-2314(平日8:45～17:15) Fax：011-218-5154 E-mail：press@siaf.jp